

平成 22年 6月 1日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間： 2007～2009

課題番号：19320104

研究課題名（和文） 日本における護符文化の解明

研究課題名（英文） The elucidation of OFUDA culture in JAPAN

研究代表者

千々和 到 (CHIJIWA ITARU)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：10013286

研究成果の概要（和文）：英国オックスフォード大学ピットリバース博物館で、明治時代に東京帝国大学で英語学・国語学の教師をしたチェンバレンのコレクションを調査した。その結果、護符資料の点数が知られていたよりずっと多く、資料は全国の社寺に及び、特に神社関係のものが多くことなどの新知見を得た。また国内調査でも、14世紀以来現在まで使われ続けている牛玉宝印（ごおうほういん）版木を確認し、これまで知られていなかった牛玉宝印を確認するなど、数多くの新知見を得た。それらの知見の多くは、2010年6月に発行される『日本の護符文化』（弘文堂）に掲載した。

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	10,000,000	3,000,000	13,000,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本人の信仰、護符、おふだ、牛玉宝印、起請文、道教、ベルナール・フランク、バジル・ホール・チェンバレン

## 1. 研究開始当初の背景

2002～2006年度の21世紀COEプログラム國學院大學「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」の事業の一環として2004年に開催された国際シンポジウム「護符・牛玉宝印研究の現状と課題」の準備、議論と総括の過程で、日本の護符の有した意味についての共通理解が深まった。そして戦後ベルナ

ール・フランクが収集した日本の「お札」調査が2006年9月に完了し、次に明治時代にバジル・H・チェンバレンが収集した「おふだ」調査が視野にはいつてきていた時期だった。

## 2. 研究の目的

2002～2006年度の21世紀COEプログラム國學院大學「神道と日本文化の国学的研究

発信の拠点形成」の事業と、平成 2003～2005 年度に実施した「護符の文化的・社会的意味に関する基礎的研究」の調査研究により、護符の有した意味についての共通理解が深まった。そして寺社が過去に発行した護符の版木が各地にまだ大量に保存される一方、それが急速に失われつつあることも明らかになった。また起請文の料紙に用いられた牛玉宝印の調査も、飛躍的にその精度をあげることに成功した。本研究はこれらの成果を受け、(1)アンケート調査や実地調査を通じた護符および版木に関する網羅的な資料収集とその分析、(2)起請文料紙牛玉宝印に関するさらに多くの情報の収集とその分析、(3)日本の護符のコレクションを有する外国の機関・研究者との研究上の連携をより一層強くし、日本の護符に関する国際的研究基盤を確立すること、の3点を主要な柱として研究を進める。それにより、護符研究の基盤を一層確かなものとするを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)研究組織の確立 研究代表者と研究分担者、および研究協力者による会議を随時開催し、調査の準備を相談するとともに、研究の進展状況等を確認した。また、計8回の「護符・起請文研究会」を大学院生や研究協力者に参加してもらって開催した。さらに毎年年度末には、『護符・起請文研究』の名でニューズレターを発行し、各地の護符研究者との連携をはかった。

(2)各地の調査 実際の調査・研究としては、国外の調査と国内の調査を行った。①国外の調査としては、イギリス・オックスフォード大学ピットリバース博物館のチェンバレン・コレクション中の護符調査を博物館側の協力を得て実施し、台湾の道教寺院の調査を継続的に実施した。②国内の調査としては、神社に対する護符アンケート調査の整理・分析結果を踏まえた国内神社の護符調査と、起請文に見える牛玉宝印の調査を実施した。

(3)文献資料の調査と資料の収集 文献資料を中心とした護符関連史料の収集は、江戸時代の地誌類の総めぐり作業により、未知の資料を探索した。

(4)ウェブによる収集資料の公開 ベルナール・フランク・コレクションの整理を進め、ウェブによる収集資料の公開を行って、他のコレクションとの比較検討を進めることとした。

### 4. 研究成果

(1)大学院生等の協力を得て事務局組織を確立し、定例の研究会も、「護符・起請文研究会」として計8回開催し、連絡情報誌『「護符・起請文研究」』を創刊して3号まで発行した。また、webでも情報公開のためのページを立ち上げるなど、国内外の研究者との情報の共有化をはかった。

(2)調査は、国外と国内で実施した。国外調査では、①中国・台湾の道教、仏教寺院の調査と②英国オックスフォード大学ピットリバース博物館チェンバレン・コレクションの調査を実施した。①台湾の調査では、台湾南部の道教儀式で用いられる20種ほどの符について、名称・符形・用法を明らかにすることができ、現在用いられることがほとんど無いいくつかの符の資料を入手できたのは、調査成果として特筆すべき点である。台南の道教については比較的研究が蓄積されているが、符に関してはほとんど研究がされておらず、貴重な資料の蒐集ができたといえる。②本科研の最大の成果といえるのは、英国オックスフォード大学ピットリバース博物館チェンバレン・コレクションの調査であった。これは19世紀後半にお雇い外国人として日本に在住したB・H・チェンバレンの収集品で、就中日本の「おふだ」がその多くを占める。これまでこのコレクションを調査した日本の研究者は何人かいるが、ある目的に限った数日の閲覧にとどまり、収集した情報も断片的だった。そこで我々は現地に延べ2週間滞在し、440

点余の資料を網羅的に調査した。護符に関してはほぼ8割方の資料収集を終えることができたと考えられるが、その結果判明したことは、(a)資料の点数が知られていたよりずっと多く、(b)資料は全国の社寺に及び、特に神社関係のものが多い、(c)従来いわれていたようにたしかに小泉八雲収集品が多いが、その他の資料もかなり含まれる、などだった。この結果、このコレクションが19世紀後半の神社史を考える上で重要であり、また19世紀末の資料として、1930年代の資料(ルロワ=グーラン・コレクション)、1970年代の資料(フランク・コレクション)と合わせて時系列で検討するのに最良の資料であること等が確認できた。

(3)国内調査としては、秋田・宮城・滋賀・京都・奈良・兵庫・福井・山口県等で護符版木及び起請文等の調査を実施した。成果は多いが、中でも京都・東寺の「御影堂牛玉宝印」版木が中世以来持続して刷り出すのに使われていたことを確定できたこと、秋田調査で1872年の血判起請文を確認できたこと、福井県・劔神社文書の調査で1393年の文書の料紙とされていた牛玉宝印が、実は文書と別の料紙であることを初めて確認するなどし、実地調査の意義を再認識させられた。またチェンバレン・コレクションに残る護符の発行社寺調査を、宮城県・金華山や長野県等で実施した。すでに廃寺になっている寺もあったが、かつて発行していた「おふだ」に関する聞き取りができるなどの成果があり、この方法は経費と時間さえ得られればきわめて有効であることが確認できた。

(4)神社に対する護符アンケート調査の分析結果の論文化が完了し、6月に刊行する『日本の護符文化』(弘文堂)に掲載することになった。従来実施されることのなかったアン

ケートであり、今後同様の調査が行われる場合の指針ともなろう。なお、この『日本の護符文化』には、本科研で得た知見が、他にも多く収録されている。

(5)2010年3月17日～4月27日の間、國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館で企画展「日本の護符文化」が開催されたが、本プロジェクトも3年間の調査の成果を広く公開するため、これに協力し多くの来館者の高い評価を得た。

(6)2009年6月26日にベルナル・フランク・コレクションを所蔵するコレージュ・ド・フランス日本学高等研究所と國學院大學研究開発推進機構との間で研究協力に関する覚書が締結され、これによって本プロジェクトで整理が進められたフランク・コレクションのweb上での公開の実現に向けて、大きな前進がなされた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- ① 倉石忠彦、「むすぶの神」と道祖神、道祖神研究、査読有、1巻、2007、p.3-14
- ② 古山正人、西欧のアミュレットについて、國學院大學紀要、査読有、46巻、2008、p.135-159
- ③ 大河内千恵、軽井沢における版木等の調査、護符・起請文研究、査読無、1巻、2008、p.9-14
- ④ 堀越祐一、「毛利家文書」に残る二通の起請文前書案、護符・起請文研究、査読無、2巻、2009、p.1-6
- ⑤ 竹本千鶴、織田信長の起請文をめぐって、護符・起請文研究、査読無、2巻、2009、p.7-10
- ⑥ 千々和到、チェンバレンコレクションの護符調査、護符・起請文研究、査読無、2巻、2009、p.11-16
- ⑦ 大河内千恵、近世の誓詞にみえる血判と端作り、古文書研究、査読有、67号、2009、p.34-55
- ⑧ 千々和到、気になっていた起請文・牛玉宝印、護符・起請文研究、査読無、3巻、2010、p.13-16

〔学会発表〕(計6件)

- ① 千々和到、東寺御影堂牛玉宝印に関する一考察、東寺文書研究会、京都市、2007
- ② 千々和到、オックスフォード大学ピットリバーズ博物館所蔵の日本のおふだ、護符・起請文研究会、東京都、2009
- ③ 宮本誉士、チェンバレンと和歌ー佐々木信綱との関わりを中心にー、護符・起請文研究会、東京都、2009
- ④ 千々和到、上田市の中世における信仰と史料ー生島足島神社起請文を中心にー、上田新自由大学、長野県上田市、2009
- ⑤ 細貝真理、霊社起請文と霊社上巻起請文、護符・起請文研究会、東京都、2009
- ⑥ 堀越祐一、豊臣政権の起請文、護符・起請文研究会、東京都、2009

〔図書〕(計2件)

- ① 千々和到、板碑と石塔の祈り、山川出版社、2007、104
- ② 千々和到、倉石忠彦、他、日本の護符文化、弘文堂、2010、320

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/gofu/>

企画展示「日本の護符文化」

千々和到、2010年3月17日～4月27日、於・國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館(同リサーチセンターと共催)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

千々和 到(CHIJIWA ITARU)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：10013286

### (2) 研究分担者

岡田 莊司(OKADA SHOUJI)

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：60146735

(H20→H21:連携研究者)

古山 正人(HURUYAMA MASATO)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：20181472

(H21:連携研究者)

倉石 忠彦(KURAIISHI TADAHIKO)

國學院大學・文学部・特別専任教授

研究者番号：40161723

(H20→H21:連携研究者)

浅野 春二(ASANO HARUJI)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：30289714

(H20:連携研究研究者)

樋口 秀実(HIGUCHI HIDEMI)

國學院大學・文学部・准教授

研究者番号：50052171

(H20:研究協力者、H21:連携研究者)

### (3) 連携研究者

阪本 是丸

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：30162308

### (4) 研究協力者

大河内 千恵(OHKOUCI CHIE)

國學院大學・文学研究科史学専攻後期院生

研究者番号：

嶋津 宣史(SHIMADU NORIHUMI)

國學院大學・神道文化学部・兼任講師

研究者番号：

竹本 千鶴(TAKEMOTO CHIZU)

國學院大學・文学部・兼任講師

研究者番号：

星野 靖二(HOSHINO SEIJI)

國學院大學・研究開発推進機構・助教

研究者番号：50453551

堀越 祐一(HORIKOSHI YUICHI)

國學院大學・文学部・兼任講師

研究者番号：